

鼻柱下降術には下記の内容が含まれます。

鼻尖形成術

鼻尖形成術とは、鼻先の鼻尖と呼ばれる部位を細くすっきりと整える手術です。鼻を切開し、余分な組織を取り除いてから左右の鼻翼軟骨を糸で縫い寄せ、足りない場合は耳介軟骨や肋軟骨を移植し形を整えます。鼻先がシャープになるとスッキリした印象になります。

鼻尖形成術の持続性

鼻尖形成術は半永久的に効果が持続する整形です。鼻や皮下組織を直接メスで切除していく手術のため、術後に元に戻ってしまうことはありません。

鼻尖形成術後の状態・ケアについて

- ・当日と翌日は長時間の入浴はなるべく避け、軽いシャワー程度にしてください。術後1週間程度は血流が良くなることでの腫れを防ぐため、熱いお風呂を避けていただくことをおすすめします。
 - ・1週間後に来院していただき、抜糸を行います。その間はギプスやテーピングで手術部位を固定します。
 - ・ギプスが外れ抜糸が完了するまでは、メガネやサングラスの着用をお控えください。
 - ・抜糸前は患部がなるべく濡れないようにしてください。ギプスが取れてからは鼻周辺も優しく洗っていただいて大丈夫です。メイクは抜糸が完了し、ギプスが外れてからは可能ですが、最初のうちは周辺に触れる際はなるべく優しく、できる限り負担をかけないようにしてください。
 - ・強い腫れは、1～2週間程度で引いていき、その後も時間の経過と共に腫れが引きます。
 - ・内出血については、個人差がありますが数週間前後で消失します。
 - ・術後は、しばらくの間鼻に強い力が加わらないようにしてください。とくに術後1週間程は手術部位や傷口周辺が不安定な時期のため、なるべく鼻に負担がかからないよう十分に注意して生活してください。具体的には、うつ伏せで寝る、鼻を押す、ぶつける、鼻をかむ、鼻先や傷口周辺を触るといった行為はできるだけ行わないよう充分ご注意ください。
 - ・飲酒は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、1週間ほどお控えください。
 - ・運動は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、軽い運動は1週間、激しい運動は当面の間お控えください。
- ※気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。
- ※授乳中の方は、術後48時間は断乳して頂きますようお願い致します。

鼻尖形成術で生じる可能性のあるリスクについて

【内出血】

鼻の周辺に内出血が生じる場合があります。最初は青黒い色みでその後黄色→肌色と変化していきます。出現や消失には個人差がありますが、数週間かかる場合があります。

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より若干の腫れが起こります。概ね2週間ほどで腫れは引いていきます。

【しびれ】

手術により非常に細かく小さい神経を切ることがあり、術後痺れが残る可能性があります。多くの場合は3～4ヶ月で回復します。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。場合により、抗生剤の内服や外科的処置が必要となる可能性があります。

【左右差】

手術直後より左右差が出る場合があります。ダウンタイム中はとくに左右差を強く感じる場合があります。元々人体は左右非対称であり、また個々の鼻の形、筋肉の動き、普段の生活上の癖などが原因で、完全な左右対称にはならない場合があります。

【皮膚の菲薄化、移植物の露出】

軟骨など移植物を挿入した場合、手術により鼻の皮膚が薄くなり、移植物が当たる部分の皮膚が発赤したり、移植物が露出することがあります。

【肥厚性瘢痕（ケロイド）】

ケロイド体質の方は傷が治る過程で皮膚が盛り上がってしまう場合があります。その場合、別途瘢痕に対する治療が必要になります。

鼻尖形成術をお受けいただけない方

妊娠中の方、親権者の同意がない未成年の方、鼻に怪我や炎症がある方、局所麻酔剤にアレルギーをお持ちの方は手術を受けられません。

鼻中隔延長術

鼻中隔延長術とは、鼻先を高くしたり下向きにするなど、鼻を前方に伸ばす手術です。鼻中隔と呼ばれる鼻の穴を左右に分けている壁の先に、ご自身の軟骨など移植物を縫い付けることで角度を調整します。鼻が短い方や、鼻が上を向いているため鼻の穴が大きく見えるのが気になる方などは、鼻中隔延長で印象を変えることができます。

鼻中隔延長術の持続性

鼻中隔延長術は半永久的に効果が持続する整形です。鼻をメスで切開し、皮下組織の切除や挿入物の調整を直接行う手術のため、術後に元に戻ってしまうことはありません。

鼻中隔延長術後の状態・ケアについて

- ・当日と翌日は長時間の入浴はなるべく避け、軽いシャワー程度にしてください。術後1週間程度は血流が良くなることでの腫れを防ぐため、熱いお風呂を避けていただくことをおすすめします。
 - ・1週間後に来院していただき、抜糸を行います。その間はギプスやテーピングで手術部位を固定します。
 - ・抜糸前は患部がなるべく濡れないようにしてください。ギプスが取れてからは鼻周辺も優しく洗っていただいて大丈夫です。メイクは抜糸以降可能ですが、最初のうちは周辺に触れる際はなるべく優しく、できる限り負担をかけないようにしてください。
 - ・強い腫れは、1~2週間程度で引いていき、その後も時間の経過と共に腫れが引きます。
 - ・内出血については、個人差がありますが数週間前後で消失します。
 - ・術後は、しばらくの間鼻に強い力が加わらないようにしてください。とくに術後1週間程は手術部位や傷口周辺が不安定な時期のため、なるべく鼻に負担がかからないよう十分に注意して生活してください。具体的には、うつ伏せで寝る、鼻を押す、ぶつける、鼻をかむ、鼻先や傷口周辺を触るといった行為はできるだけ行わないよう充分ご注意ください。
 - ・飲酒は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、1週間ほどお控えください。
 - ・運動は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、軽い運動は1週間、激しい運動は当面の間お控えください。
- ※気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。
- ※授乳中の方は、術後48時間は断乳して頂きますようお願い致します。

鼻中隔延長術で生じる可能性のあるリスクについて

【内出血】

鼻の周辺に内出血が生じる場合があります。最初は青黒い色みでその後黄色→肌色と変化していきます。出現や消失には個人差がありますが、数週間かかる場合があります。

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より若干の腫れが起こります。概ね2週間ほどで腫れは引いていきます。

【しびれ】

手術により非常に細かく小さい神経を切ることがあり、術後痺れが残る可能性があります。多くの場合は3～4ヶ月で回復します。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。場合により、抗生剤の内服や外科的処置が必要となる可能性があります。

【左右差】

手術直後より左右差が出る場合があります。ダウンタイム中はとくに左右差を強く感じる場合があります。元々人体は左右非対称であり、また個々の鼻の形、筋肉の動き、普段の生活上の癖などが原因で、完全な左右対称にはならない場合があります。

【皮膚の菲薄化、移植物の露出】

軟骨など移植物移植物が当たる部分の皮膚が薄くなることで発赤したり、移植物が露出することがあります。

【肥厚性瘢痕（ケロイド）】

ケロイド体質の方は傷が治る過程で皮膚が盛り上がってしまう場合があります。その場合、別途瘢痕に対する治療が必要になります。

鼻中隔延長術をお受けいただけない方

妊娠中の方、親権者の同意がない未成年の方、鼻に怪我や炎症がある方、局所麻酔剤にアレルギーをお持ちの方は手術を受けられません。